



## 自転車スマホ 安全意識欠く

スマートフォンを手にした「ながらスマホ」の自転車が歩行者を死亡させた事故で、元安千大生(20)に重過失致死罪での有罪判決を言い渡した今日27日の横浜地裁川崎支部判決は、いづれも身近なスマホと自転車の安易な同時使用に潜む危険を浮き彫りにした。同種事故の増加に、識者は規制の必要性も指摘する。

「自分が加害者になるという気持ちは1ミリもなかった」。7月の初公判でこう話した被告。事故前にもスマホを操作しながら自転車を運転したことがあったと明かした。

事故は昨年12月、川崎市麻生区で起きた。判決によると、左肩にイヤホンをした状態で右手に飲み物、左手にスマホを持って電動アシスト自転車を運転したのは少なくとも33秒間。友人と無料通信アプリLINE(ライン)でやりとりし、スマホをスポンのポケットにしまう際に女性と当時

### 多くが「自分だけは大丈夫」

## 安易な行動、事故急増



行)と衝突し、2日後に死亡させた。

判決は「自転車が人を死傷させ得るとの自覚を欠く運転で、周囲の安全を全く顧みない自己本位な態度」と非難。事故を「そのような態度による運転の危険性が現実化した」と位置付けた。

ながらスマホに限らず、自転車側が歩行者との間で過失の重い「第1当事者」だった事故はここ10年間ほど横ばいが続き、年間2500件前後で推移。自動車の事故件数が車両の安全性の高度化や道交法の厳罰化といった対策で減少傾向にあるのとは異なる。

筑波大の徳田克己教授(バリアフリー論)は歩きスマホや自転車スマホを現地調査した多くの国・地域では「例外なく社会問題化しており、多くの人に『自分だけは大丈夫』という意識がある」と指摘。「根拠のない考えは一生涯の後悔をもたらすと自覚しなければならぬ」として、規制の必要性を挙げる。

### 画面を注視

### 人生を一変

警察庁の集計では、昨年1年間に歩行者がスマホを含む携帯電話使用中の自転車にはねられるなどした事故は全国で45件発生。スマホ普及前だった07年の13件からは3倍以上に急増し、警察庁は「SNSが広まったことで、自転車に乗っていても画面を注視する人が増えたのではないかと話す。

実際に事故要因の分析では、SNSやゲームで画面に目をやった「画像目的の使用」が29件で半数以上を占める。ほかは相手と会話していた「通話目的の使用」が4件、着信がありポケットから出さずとしていたなどの「その他動作」が11件など

被告が「そんなに悪いことだと思っていなかった」と話した自転車のながらスマホは人生も一変させた。大学で目指した保育士の夢は今回の事故を機に断念。「勉強は続けたかったが、人の命を奪ってしまったが、預かるような仕事はできない」と公判で語った。

遺族は判決後、弁護士を通じて訴えた。「自転車は一つ間違えば人を殺せてしまう乗り物。運転する側の安全への認識が強まることで、事故に適用される法律が厳罰化されること、どちらも重要だと考えています」

(2018年8月29日付・岩手日報2面)

- 記事では「ながらスマホ」によって、どのような事故が発生したと書かれていますか。
- 2017年1年間に、携帯電話使用中の自転車に歩行者がはねられるなどした事故は何件発生していますか。また、それはスマホ普及前の2007年の発生件数の何倍以上になりますか。
- 「ながらスマホ」の自転車運転が危険なのは、どうしてですか。
- 筑波大の徳田克己教授は「ながらスマホ」の自転車運転に対する人々のどのような意識が危険であると指摘していますか。
- 「ながらスマホ」の自転車運転の危険を呼びかける標語をつくってみましょう。

自転車=じてんしゃ、歩行者=ほこうしゃ、死亡=しぼう、事故=じこ、重過失致死罪=じゅうかしつちしぎい、有罪=ゆうざい、判決=はんけつ、言い渡した=いいわたした、横浜地裁=よこはまちさい、川崎支部=かわさきしぶ、身近=みぢか、安易=あんい、同時=どうじ、使用=しよう、潜む=ひそむ、危険=きけん、浮き彫り=うきぼり、同種=どうしゅ、増加=ぞうか、識者=しきしゃ、規制=きせい、必要性=ひつようせい、指摘=してき、加害者=かがいしゃ、気持ち=きもち、初公判=はつこうはん、被告=ひこく、操作=そうさ、運転=うんてん、明かした=あかした、川崎市麻生区=かわさきしあさおく、起きた=おきた、状態=じょうたい、飲み物=のみもの、電動=でんどう、33秒間=さんじゅうさんびょうかん、無料通信=むりょうつうしん、際=さい、女性=じょせい、当時=とうじ、衝突=しょうとつ、死傷=ししょう、得る=うる、自覚=じかく、欠く=かく、周囲=しゅうい、安全=あんぜん、全く=まったく、顧みない=かえりみない、自己本位=じこほんい、態度=たいど、非難=ひなん、現実化=げんじつか、位置付け=いちづけ、警察庁=けいさつちょう、集計=しゅうけい、含む=ふくむ、携帯電話=けいたいでんわ、普及=ふきゅう、急増=きゅうぞう、画面=がめん、注視=ちゅうし、実際=じっさい、要因=よういん、分析=ぶんせき、画像目的=がぞうもくてき、占める=しめる、相手=あいて、会話=かいわ、通話=つうわ、着信=ちゃくしん、第1当事者=だいいちとうじしゃ、推移=すいい、車両=しゃりょう、道交法=どうこうほう、厳罰=げんばつ、対策=たいさく、減少=げんしょう、傾向=けいこう、筑波大=つくばだい、現地調査=げんちちょうさ、例外=れいがい、社会問題=しゃかいもんだい、大丈夫=だいじょうぶ、意識=いしき、根拠=こんきよ、後悔=こうかい、保育士=ほいくし、夢=ゆめ、断念=だんねん、奪って=うばって、預かる=あずかる、遺族=いぞく、弁護士=べんごし、間違え=まちがえ、殺せて=ころせて、認識=にんしき、適用=てきよう、法律=ほうりつ、重要=じゅうよう